

1 - 4 市川の文学顕彰の課題

文学プラザが設立したことで、市川の文学を体系的に収集、保管、展示、調査研究、普及活動を行う機能が、行政内部に形成されたが、既存施設の転用であること、十分な組織体制になっていないことなどから、次のような課題が見られる。

(機能的課題)

- ・文学プラザが、全国的に発信できる特色ある文学施設として認知されるように、役割の明確化が求められる。
- ・図書館との機能分担、とくに資料収集についての役割の精査が必要である。

(施設の課題)

- ・図書館書庫を共用で利用しているため、必ずしも、十分な資料収集保存機能を図ることができない。とくに温湿度管理・燻蒸設備がないことが、大きな課題である。
- ・既存施設の書架を転用しているため、より来館者に展示を楽しんでもらうためには、映像や音響装置を利用したビジュアルな展示、パソコンなどを利用した情報提供機能の充実が望まれる。

(人的課題)

- ・宗左近氏資料、小島貞二氏資料、そのほか寄贈や寄託が想定される資料が多くあることから、十分な資料整理調査を行える体制づくりが課題である。
- ・水木資料の整理作業は、市民サポーターとの協働で着実に進んでいるが、文学館資料としての装備、データベース化、目録の公開などに至っていないので、さらなる整備が必要となっている。
- ・行政職員だけで行なえる業務ではないので、外部の専門的人材の活用、市民の人材育成と活用が、一層求められる。

(事業的課題)

- ・文学プラザが、まだ市民に周知されていないので、広報活動の充実が課題である。
- ・文学プラザの機能を充実させるために、十分な調査研究や企画展準備、図録作成・広報誌の発行・各種講座の開催など、普及活動の展開を図るとともに、資料のデータベース化、電子資料化、インターネットでの公開などが求められる。
- ・『市川の文学』の改訂作業を進め、文学情報の蓄積が求められる。
- ・水木洋子邸との連携をモデルに、郭沫若記念館などとの連携も深める必要がある。
- ・水木顕彰の要素として映画という側面からは、映像文化センターとの連携が望まれる。
- ・既存の文芸団体の活動や、手児奈文学賞・水木洋子シナリオ賞などとの、事業の連携も、効果的に取り組んでいくことが望まれる。

市川市で文学館構想を進めるためには、これらの課題を改善し、さらに市川の文学の魅力を全国発信できるような基本理念を設定し、取り組むことが必要であろう。